

地域経済レポート

脱炭素に取り組む中小企業



自然に囲まれた坂口製作所の和歌山工場＝和歌山県有田郡有田川町(坂口製作所提供)



洗浄容器にフィルターを装着したじょうごを取り付け、洗浄液のリサイクル回数を増やした改善提案(坂口製作所提供)

「環境レポート」CO2削減へ
12項目の目標決め、意識向上

台風や豪雨、干ばつ、海面上昇など人命や経済に大きな影響を与える気候変動問題。原因となる温室効果ガス、中でも二酸化炭素(CO2)の排出量削減は世界的課題となっている。日本では2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ、30年度のCO2排出量を13年度比で46%削減という目標は掲げたものの達成までの道筋は見えない。一

方で、国内外の企業で脱炭素に消極的な企業からの調達を抑制する動きが出ており、中小企業もサプライチェーンの中でCO2の排出削減が求められる始めている。中小企業はどのように「脱炭素」に取り組めばいいのか。自社のできることから取り組む中小企業、人工知能(AI)を活用した支援、有識者の提言を紹介する。(木下功)

坂口製作所(大阪)

工業用各種アルミ・ステ
ンレス製品の設計・製造・
加工・販売を行う坂口製作
所(大阪市西成区、坂口清
信社長)は二酸化炭素(CO2)
排出量のほか、排水量
や廃棄物など12項目の削減
目標を決め、達成状況を評
価し「環境レポート」とし
てまとめている。全社で共
有し、新たな施策につなげ
ることで「脱炭素」への取
り組みが社員の意識向上
経営に直結する成果につな
がっている。

2019年度の電力使用
量は工場照明の発光ダイオ
ード(LED)化などで前
年度比マイナス27・5%と
目標を超える高水準の削減
を実現。一方で未達となっ
た産業廃棄物については原
因の特定や対策を指示して
いる。

2019年度の電力使用
に配慮して行動する社員育
成を表彰する。環境人づく
り企業大賞も20年に受賞。
リサイクル性の高いアル
ミ・ステンレスの加工とい
う本業の経営削減・品質向
上に関連した環境活動
や、QCサークル活動・改
善提案で社員の自発的な活
動を喚起し、生産性向上な
ど経営に直結した成果など
が評価された。

坂口社長は生産性向上に
つなげるには「管理項目の
設定の仕方が大事」と指摘。
CO2排出量削減の項目とし
ては電力・ガソリン・軽油
の差し込むことで、コックを
ひねれば洗浄液を別の容器
に移し替えられるよう
に完全に移し替えられるよ
うに改善。再利用回数が増
え、洗浄剤使用料を
削減した。

大阪日日新聞
2022(令和4)年1月27日
19面